



No.2004-I 層間はく離強さ試験機(引張試験)

引張試験機のオプションとして紙及び板紙の内部結合強さを測定するジグです。25mm 角の面積をもつステンレス製のよく磨かれた 2 つのブロック面に両面テープを張った試験片をサンドイッチさせ、150kgf の圧力をかけて接着させます。そのブロックを引張試験の上下に掴みに固定し、引張試験と同様に紙層にはく離荷重をかけます。その時の紙層破壊荷重を記録し、はく離した層の位置及びはく離面の状態を観察します。

参考規格 | J.TAPPI No.18 TAPPI UM584 上下一組 ×5 組

No.2004-II はく離試験器

粘着紙、紙粘着テープ等の接着力測定は通常 180°の定速はく離試験によって行われています。本器は定速伸長型万能試験機の上部フレーム及び移動クロスヘッド部に取付け、2 個の低摩擦のガイドロールを介して試料を上下チャックで固定し、通常の引張試験と同様に荷重を負荷します。はく離点が常に上下チャックの垂直線上にあるよう特殊機構を設け、測定の精度、再現性を考慮しています。又ガイドロールの位置をチェンジすることにより測定試料の厚さ、硬さ等広い範囲に使用できます。

外形寸法 | 150×800×100mm
重 量 | 3kg

本品をご使用の場合は予め引張試験本体に取付金具用の加工が必要となります。

No.2004-III 摩擦係数測定器

定速伸長型引張試験機を利用して、水平法により紙及び板紙(加工紙含む)の表面の摩擦係数を測定するもので、静摩擦係数及び動摩擦係数共に測定可能です。

中広の滑かな金属板上に、1 枚の試験片をテープで固定した重錘を別の試験紙の上に乗せ、低摩擦の滑車を引張試験機のロードセルの真下に位置させ、上部掴みより滑車を通じて重錘のフックに結びます。次に通常の引張試験同様クロスヘッドを下降させることにより重錘は徐々に試験紙上を滑ります。その時の摩擦抵抗をロードセルにより検知し、グラフ上に記録します。重錘が移動し始める瞬間に示す最初のピークが静摩擦力であり、引き続き重錘が移動している間中に示す摩擦力が動摩擦力となります。

試験紙巾 | 巾 100mm 長さ 150mm
巾 60mm 長さ 120mm(重錘に固定)
重 錘 | 1kg 移動距離 50mm
ロードセル容量 | 49.0N(5kg)
クロスヘッド移動速度 | 10mm/min.
参考規格 | JIS P-8147-87,TAPPI T549om-01,T816om-92

本品をご使用の場合は予め引張試験本体に取付金具用の加工が必要となります。